

活動報告

障害者就労支援機関情報交換会を開催しました！

北浦和事業課 根岸 智之

先日11月27日(水)に「令和6年度第3回障害者就労支援機関情報交換会」を開催しました。この「情報交換会」は、当法人が受託している埼玉県障害者雇用総合サポートセンター障害者職場定着支援業務の一環で、埼玉県内の市町型障害者就労支援センターを対象に障害のある方の職場定着支援のことや日々の業務のことについて情報や意見を交換して、お互いの支援スキルの向上を目指そう…という趣旨のもと令和3年度から定期開催(概ね3ヶ月に一度を目安としています)をはじめました。当初はコロナ禍でしたので、zoomを使ってのオンライン会議としていましたが、コロナ禍を過ぎたこと、また、開催を重ねるたびに「対面でも開催して欲しい」との声が大きくなつたことを受け、今回初めて対面方式で開催しました。

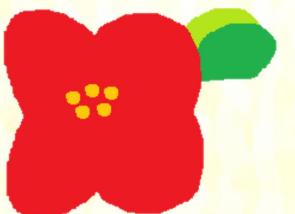
今回集まつていただいたのは11センター11名の方。浦和合同庁舎本館5階にある第5会議室で2時間半を超える開催となりました。

意見交換では、企業から依頼を受けて在職している方の支援を途中から行う難しさについてや障害福祉サービス事業所から引き継ぎを受けるケースでの困りごと、障害福祉サービス事業所との差別化を図り就労支援機関としてどう特色を出したら良いか…などなど、現在支援で直面している課題を参加いただいた皆さんで熱く語り合いました。また、休憩時間でもそこかしこで情報交換が行われており、もっともっと話し合いたい議題や話題があつたのですが、残念ながら時間切れとなつてしましました。

※あまりに白熱し過ぎて写真を撮るのを忘れてしまいました…。

終了後に参加いただいた皆さん全員からお話を伺うことは出来ませんでしたが、「やっぱり対面は良いね」との声を聞くことが出来たので、次回以降も開催出来るよう検討したいと思います(オンラインの良さを活かしつつ併用する形も考えています)。

次回は令和7年2月下旬を予定しています。少しでも皆さんのお役に立てるよう取り組みを続けたいと思います。



編集後記

広報紙年末年始号をお読みいただきありがとうございます。

今号の表紙イラストである雪だるまと、活動報告にもあるお花のイラストは、当法人本部アセスメント室の渡邊光さんに書いていただきました。2024年冬号の表紙イラストは鈴木玲央さんに描いていただいた雪だるまでしたので、お手元にあるなら見比べてみると面白いかもしれません。

法人実績報告

期間：令和6年9月～令和6年11月

(東松山第1事業課 手塚 章太朗)

(単位:名)

	新規障がい者数				合計	総数
	知的	身体	精神	その他		
センター登録者数	5	0	6	1	12	864
就職者数	1	1	2	0	4	497
実習者数(べ件数)	4	1	4	0	9	
離職者数	2	0	6	0	8	

発行責任

〒355-0028

埼玉県東松山箭弓町1-11-7

ハイムグランデ東松山2階

特定非営利活動法人

東松山障害者就労支援センター

代表理事 若尾 勝己

<http://www.zac-saitama.org>



0493-24-5658

r-ship-c.honbu
@blue.ocn.ne.jp



vol. 67

発行日：2025年1月8日

NPO 法人 東松山障害者就労支援センター

ZACNews

発行：特定非営利活動法人東松山障害者就労支援センター
電話/FAX（法人本部）：0493-24-5658

ザックニュース 2025年 年末年始号



法人代表より挨拶

節目の年に寄せて

故に至る訳ですが、結果前述したような校長と教頭からの対応を受けることになります。私はこの事を公表すべきじゃないかと父に話しましたが、父は個人としてこの罪を背負いました。しかし、父はこのこと以上に事故にあった生徒が回復するということを願い、日々この生徒との時間を費やしていた様にも感じます。当時は、学年主任などの重責も負っていたようで、毎日の病院通いと、自宅に戻ってからの夜遅くまでの残務処理、そんな様子を横目で見ていました。父は、日に日に瘦せていました。こんな思いまでして、なぜこの仕事に就いているのか、当時の私には全く理解ができませんでした。父に「個人で責任を取られ、しかも仕事の量は減らない、身体も痩せてきて、こんな仕事なら辞めてしまったらどうなのか」そんな言葉をぶつけたこともあります。父は黙って聞いているだけでした。

寒くなってきたある日、入院していた生徒が亡くなったという話を聞かされます。父がとてもショックを受けていたのを覚えています。父は、この生徒が回復するという事を本当に微塵も疑っていないかったのかも知れません。そして、生徒が亡くなられてしばらく経った12月5日、どんなに体調がすぐれなくても休んだことのない父が、珍しく調子が悪いと言ってその日は休んで自宅に居ました。朝から炬燵の中で朝刊を読んでいたのを記憶しています。今日は仕事に行かないのか？と尋ねたら、小さい声で「ああ」と返事がありました。それが私との最後の会話でした。父は、炬燵に座ったまま意識を失い、母親が異常に気づき救急搬送しましたが、そのまま眠るように亡くなつたとのことでした。心不全でした。父が亡くなった後、代わるがわる同じ学校の教師が弔問に来ました。その時に、校長や教頭、また同僚の教員から「君は長男なのだからお父さんの代わりに家族を支えなさい」と声を掛けられました。それまでどう表現して良いかわからなかった私自身の感情に、強い怒りがこみ上げてきました。何もしてくれなかつた同僚や、罪を1人に押し付けた校長や教頭、父は最後まで一人で抱えて死んでいったのに…。遺り甲斐をもってこの職業に就いていた父にとって、晩年のこの出来事は、どの様な気持ちだったのだろうか、そんなことばかりを考えていた気がします。

私がこの業界に就いたのは、単純な理由であったと思いますが、この業界でこの仕事を続けてこられた原動力の一つに、間違なく父の晩年のこの出来事を背中越しに見ていたことにあると考えています。信念を貫くことは、決して楽な道ではありません。大義を尽くす人生とする、これは私自身が決めたこと。その信念をもってやり続けたことがこの35年であったような気がします。忙しく過ごす毎日ですが、父の記憶に少し触れ、あらためて初心に帰る機会となりました。

代表理事 若尾 勝己

事業所別ニュース



法人本部・本部アセスメント室

交流ピアサロンを開催しました

東松山第1事業課 友田 祐一

11月16日(土)に交流ピアサロンを開催しました。午前と午後で時間帯を分けて開催して、午前9名・午後9名の参加がありました。

今回は午前の会で・自分の推しているもの“をテーマに話してもらいました。まずは参加者それぞれから推しているもの、趣味をあげていただきグループに分かれてフリートークを楽しんでもらいました。皆さんの方々はアニメやゲームが好きでしたが、アニメでも昭和のアニメから現在のものまで幅が広く話題は多岐にわたっていました。自分の好きなことを話すこともあり、話すことが苦手な方も普段より積極的に話しが出来ていたように感じました。

皆さんからは楽しく話しが出来たという感想もあり、こういったテーマでまた開催したいと思いました。まだまだ控えめな人もいたため、もっと皆さんの方々の“を引き出せるよう企画を考えていきたいと思います。



▲それぞれの趣味を発表

▼趣味の話をしている参加者



16:30～17:00
記録の入力、電話対応

先程行ったアセスメント内容を記録システムに入力し、作業結果の集計を行います。所見に関しては、複数職員で話し合い、より客観的な評価になるよう努めます。



ご本人の様子など関係機関と共有した方が良い場合は電話で報告します。



17:00～
サブアドバイザーに報告

取材日は、5日間のアセスメント最終日でした。5日間の様子をサブアドバイザーに報告します。明日以降は、ご本人、関係機関に結果をお伝えするために、まとめの作業を行います。



17:30
退勤

1日お疲れさまでした！

北浦和事業所

令和6年度県庁オープンデーに参加してきました！

北浦和事業課 根岸 智之

11月14日(木)県民の日に、埼玉県庁で行われました令和6年度県庁オープンデーに参加してきました。この県庁オープンデーとは、『県民の皆さんに日頃の県庁でのお仕事を知っていただくことや、埼玉県の魅力などに触れてもらうため、県民の日に県庁舎を開放して、ステージイベントや府内各課等のブース出展を行う(埼玉県ホームページより)』行事となっており、毎年県民の日に開催されています。

今年は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンター障害者職場定着支援事業の受託元である雇用労働課さんより出展ブースの協力依頼をいただいたため、日頃行っている就労アセスメント支援の一部を紹介しよう！…ということで、スタッフ3名で幕張版ワークサンプルの体験コーナーを担当してきました。

会場となる危機管理防災センターの中庭にはたくさんの方が来場されていました。私たちのブースには来てくれるのかな？と心配があつたのですが、順番待ちの列が絶えないほどの方々に来ていただきました。

ご用意したのは幕張版ワークサンプルの「ナップキン折り」。動画を見ながら動画で示す通りにナップキンを折って手先の器用さを評価する作業なのですが、小学生の子どもたちやお母さん方が次々とクリアしてゆきました！



▲来場者の方に体験していただいている
上手に折れるかな？

私たちが担当した時間は、たったの(?)1時間30分だったのですが、なんと95人のお客様に来てくださいました(雇用労働課調べ)。とても濃密な時間でスタッフはぐくたになってしまいました…。

県庁のお仕事や埼玉県の魅力を発信出来たかどうかちょっとだけ疑問は残りましたが、県民の皆さんとふれあい貴重な経験をさせていただきました。

～ 働く上で大切なことは自分自身を知ること ～

一方的な評価ではなく
ご本人が自分について知り就労に活かせるように支援したい



Q 就労支援機関人材育成業務
(就労アセスメント支援)
の役割は？



A 就労アセスメント支援は、障害のある方が持つ特徴と得意なことや苦手なことを把握し、必要な配慮や支援を整理して、その内容を障害のあるご本人や支援担当者にフィードバックします。

そして、この就労アセスメント支援を行うことで、支援担当者のスキル向上や人材育成に繋げ、県内の支援機関への人的サポートをすることも目的の一つとなっています。

実際の就労アセスメント支援では、幕張版ワークサンプルやMS FASなどの評価ツールを使って、標準5日間のプログラムを行うことで、働くために必要な能力や、得意・不得意といった特性を見てゆきます。プログラムを行うことで得られた内容を、一般平均値と呼ぶ基準に照らし合わせたり、作業スキルや対人スキルといった項目から評価をさせていただき、評価結果としてまとめた上でご本人や支援担当者にフィードバックします。フィードバックでは、ご本人が就労に向けてどのような配慮や支援があると良いのか、どのような仕事や職場環境が良いかなどの助言を行います。

就労アセスメント支援は県内在住の方を対象としているため、埼玉県障害者雇用総合サポートセンター内だけでなく、当法人の各事業所(東松山・久喜)での実施や支援機関への出張などでも対応しています。

Q 仕事で心がけていることは？



A 先入観を持たずに、アセスメントを行うよう心がけています。「前こうだったから」という理由や、障害種別から「こういう特性があるのではないか」と対象者の方を決めつけないで、フラットな気持ちで接することを大切にしています。

「どうして？」「なぜ？」という視点で行動観察をしているため、対象者の方に質問をすることもあります。そうすることによって、なぜ正確にできないのかという理由やご本人の考え方や特徴を知ることができます。対象者の方には質問だけでなく、見たままのことを伝えることや、以前同じようなことがあったのか聞くことがありますが、やりとりの中でご本人が「自分はこうだったんだ。」と気づかれことがあります。後日、アセスメントのまとめを対象者の方と支援機関に伝えますが、私は5日間のアセスメントの中で、ご自身の気づきがあり、就労に前向きに取り組める気持ちになっていただけるようなアセスメントが行えるように心がけています。